

このコーナーでは防衛研究所の所蔵史料のうち、新たに公開した史料を紹介しています。今月は特号として真珠湾攻撃時、空母赤城艦長であった長谷川喜一大佐の日記特集です。

最近、ロバート・スティネット著『真珠湾の真実 ルーズベルト欺瞞の日々』が出版されて以来、日本海軍の機動部隊が電波封止を破ったのではないかと云うことが、誌上を賑わしています。その中で空母「赤城」艦長であった長谷川喜一大佐の日記が証拠に挙げられています。（12月6日の項）

今回、御遺族から公開の承諾を得ましたので、単冠湾出港（1941年11月26日）から開戦前日（12月7日）までの全文を掲載しました。なお、日記全文は修復が済み次第、近く公開する予定です。また、同時にスティネット氏から寄贈された米海軍通信傍聴解読史料も併せて公開します。なお、史料の引用に際しては当史料閲覧室の利用規則に従って下さい。

### 「長谷川喜一日誌」

十一月二十六日 水曜日 曇時々吹雪

○七〇〇出港予定の処、右舷試運転の際防舷物及舳索のwire及ホーサー二本を巻き外れず。遂に潜水者を入れて外す為に一時間出港遅る。

長官より又大目玉を喰ふ、誠に尤の事にて申訳なし。昨夜出港用意をやると云ふから防舷物などは揚収してしまつてあると思へは此の始末にて、佐伯の出港、佐世保の出港、此の頃出港と云ふとだらしく困つたものなり。副長か少しも作業の監督をせず当直将校任せ、其の当直将校か副直将校任せ、皆下任せにて一寸も自分で見廻らざる故此の有様なり。こんなぐずな副長ては百年目なり。

随々積極的にやる様に注意するも積極性なし、ぼうっとして居て更にたよりなし。されと願は、これ至誠天に通せざるは艦長の徳足らざるなり。副長の不足をかこつ前に先づ自らを責めよ。

一時間遅れにて出港し兎も角も征途に上り得ほつとす。榴弾射撃を行ひ墮気を去る。

海上濤あるも平穩航海としては上の部なり、時々濤と同調し異常の振動あり。

八日の月淡く吹雪時々数分視界を不良ならしむるも間もなく晴れ心配なし。

十一月二十七日 木曜日 快晴

○五五九日出なるも四時半には既に薄明るし。

昨夜来扁桃腺はれ痛し、マニテルを塗る。

軍医長自ら治療に来り。平素の呑気者に似ぬまめなのに驚く。三時五分日没、終日濤あるも好天気なり、月清し。夜長の航海は警戒上好適なり。

十一月二十八日 金曜日 曇

昨日迄は北-北西の風にて左舷より吹きしか補給日の今日は有難や左舷にvari濤も少く合計風速最大十七、八米、平均十四、五米にて好適なり。

○四三〇より列外に出で準備せしか健洋丸一向に近つかず補給を始めしは○八二〇なり。二時間も空費せるにはあきれぬ。補給は平均七〇-八〇屯にて一時間半にて四三五屯を取る。

ホーズを健洋丸へまな取込方をするのでローラーから外し、これ又三〇分程空費す。本日の健洋丸の出来ばへ悪し。

扁桃腺は相変らず痛し、湿布をする。

征途に上りて以来夢に家郷を見る。父に逢ひ母に逢ひ祖母に逢ふ。此の身を加護して下さるものと思ひ有難し。必勝を確信して聖なる御戦に奉す父祖の靈感ある又むべなり。

本日〇五三五日出、一四四三日没なり、見当外れの時間にてぴったりせず。

十一月二十九日 土曜日 曇濃霧

〇五一五日出、作業なければ落ちついて休養す。扁桃腺尚痛去らず、銀水にて焼く。

「わか旅の記」漸く読破、徒に傷心をてらひ明朗闊達の気宇なく物足りす。

昨日来南東の風にて煙入り不愉快限りなし。一四〇〇より霧かゝり霧中航行にて徹夜す。

長官かとても隊列の乱れるを心配し傍て見る眼も気の毒なり。主将は細心の注意を拂はふても然るへきも過度の心配を現はさざること肝要なれ。

隊列か乱れる、迷子か出来る、遅れる、霧ははれぬか、灯火を出せ、消せ、一人て艦橋を賑はし、参謀長黙し参謀黙し艦長黙す。口数多く一喜一憂口走るは主将の憤むへき事なり。学はさる可らず。

十一月三十日 日曜日 霧後曇

〇四五一日出、霧尚はれず。〇七三〇頃より断続はれ間を見る。〇八〇〇より十二節、〇九三〇より十四節となし霧漸く薄らく、視界奇[マ]動部隊に好適なり。

水戦は補給を始めしも長官か視界を心配して一時見合せしも十四節として再興す。

昨夜徹夜せしを以て今日は心配なきを以て休憩室にて休養す。扁桃腺次第によし。

一三五八日没、入浴日なるを以て体をふく、気持ちよし。

十二月一日 月曜日 曇

〇四二五日出、南風依然たり、視界は良好ならさるも艦隊通視に差支なし。

〇七三〇より赤城神社例祭を施行す。

一二〇〇金櫃検査を行ふ。束のものは其俟にて端のみ数をこく明に数へるはおかし。

本日は長官も落つきて顔色漸く平常なり。艦橋静なり。一三三五日没なり。

十二月二日 火曜日 曇

〇三三〇より隊列の右一〇〇〇米に出て〇四〇〇より補給作業を開始す、速力九節。

始め極めて順調に行きしか濤の為め張来りしと健洋丸錨鎖延し過ぎし為め過張を来し后部揚錨機脱縁し故障にて二進も三進も行かすたゝいて直す積りてたゝいて居るか到底速急には直らぬと見たので人力てやらせる。これか転換に約一時間を要し折角〇四〇〇より始め給油開始は〇六五五となる。爾後一時間平均一〇〇屯宛受け入れ一三一五、六〇七屯にて補給を終る。

一四〇〇より原速となし又昨夜と全橋、補助機械排気の給水加熱器に到る弁切折[マ]せる為め左舷外軸を止め故障復旧にかゝる。

昨夜は左舷内軸なりしか全一故障か右舷内軸にもあり右舷も修理したきも舵取機を転換の要あるを以て明朝左舷機は実施の事にす。

舵取機の転換は報告せず、急に取りかへるとの申出に驚き中止せしむ。  
自分の処掌以外に対しては不関主義は機関科の通弊なり、戒めさるへからず。  
○四〇二日出、一三一五日没なり。  
体を拭き気持ちよくなる。

十二月三日 水曜日 曇雨

終日雨降ったり止んだり其の都度視界大小となり長官を一喜一憂せしむ。  
灯を出せ、消せ、見えるか、一人てお賑な事なり。主将たるものは軽々しく一喜一憂すへきものにあらず。学ぶべき処大なり。  
一二〇〇加賀溺者あり、舷外作業中海中に落ちしものにて此の荒天にては如何とも致し難く一時隊列より離れしも遺憾乍ら帰れの信号にて引返す。  
本艦もドラム缶作業にて前後甲板に出るを以て充分副長をして警戒せしむ。  
×日十二月八日と決定せらる。乾坤一擲の国難に赴く可き日は定まれり。盡忠、職を奉し天職を盡し得る幸、何物かこれに若かむ哉。  
生を皇国に亨けて剣を磨く三十年、今日に備へむ為のみ、一層奮励努力皇国に奉せむ。  
○三三五日出、一二四五日没なり。

十二月四日 木曜日 雨曇

終日昨日と全し針路一〇〇より一四五度に変針、C点に向ふ。視風向一寸変化しやれやれと思ひしも束の間、又又右六〇―九〇度にて煙侵入呼吸苦し。風速三五米を越しか二時頃より一五米以下となる。  
○三一二日出、一二三七日没なり。  
入浴日なれば体を拭き気持ちよし。

十二月五日 金曜日 曇細雨

風おさまり一時太陽を望みしか暫くにしてかくれ時々細雨来り視界良好ならず。さりとして僚艦の視認困難ならず。第八戦隊、第一水雷戦隊は補給を行ひ日中半速夜間微速にて航行す。戦闘機待機引く件につき参謀に話したらは引いてよいと云ったから引くと板谷隊長か云ふので艦長は聞いておらぬと一寸筋違ひを正す。  
隊長か理屈を云ひかけ此の天候ては待機して居て出せぬと云ふから待機引けの命令に接し居らず、吾々は命令通り実施するのみと云ったので流石に感しの早い隊長、間違いました、参謀か引いてよいと云ふから引いて差支なきやと云ひ直したので、「よし引け」と命令す。司令部直卒か度を過ぎ時々此の過をおかすは遺憾なり。源田参謀も飛行隊の悪い欠点を多分に持っておるは、好漢惜しむへし。  
本日は如何せしや長官落ちつき一向に視界を心配せず。前日の様子に引きかへ薄気味悪し。首将は最初よりかくあるべきものなり。学ぶべき処大なり。  
○二五七日出、一二三一日没。本日より昼間第二配備にて警戒す。天候吾に幸し警戒上此の上なし。

「海ほしづき」を読了す。なかなかよく書けておるかどうもぎこちなく世の家庭教育にあまりに癖見を持って独善的なるを惜しむ。  
殊に「インテリ」及資産家に対して著しきひがみ根性あり、敵意を有せるは教育家とし又行文公正を説ける女史として承引し難し。

十二月六日 土曜日 曇驟雨

日出前後は晴れそうなりしも其の後風向南西にvariし為晴れやらず遂に終日曇、日没後は驟雨さえ加はれり。

敵機飛行偵察には不適の天候なれば敵潜のみに対し警戒すれば足り、恵まれたる航海なり。明日一日此の調子を祈る、切なり。

一七〇〇作戦緊急信にて通信部隊発信ハワイの北方八〇〇哩に敵潜一隻、他の一隻と通信しつゝあり。吾連合方位測定中との情報あり。吾等の航行付近なれば一寸緊張させられる。

〇二三四日出、一二二五日没なり。

本日も入浴日とて体を拭く、気温高まり稍暑し、冬着を変更の要あり。

十二月七日 日曜日 晴曇

合戦準備を完成し〇七〇〇より二十節にて南下す。単冠湾出港以来、空晴れ南国の空を望む。

日中敵機に発見せられずは幸なりと、むしろ空の曇を希む。

九時を過ぎ先つ八〇%は望を達せりと一同喜ぶ。雲少し出つ。

一二四二日没後驟雨あり、二一〇に変針せし処、動揺十五、六度に及ぶ。

一九三〇再一八〇度に変針し平静に復す。本日一日戦闘配食にて戦技の際に比しまるて献立不良につき注意し夕食は改善せられたり。

時間あるに拘らず粗食を以て戦闘配食と心得る主計長の気知れず。

夜食は平静あるに戦闘前夜なきはおかし。

明日の戦闘に備へ衣換へす。

坊やは如何なる夢や結ふらむ。健在てあれ、お前か丈夫て何の心配もなく留守してくれるので心安らかに、祖国の難に赴き得る幸を欣ぶ。

必勝を確信して敵陣へと進撃す。速力二十節。

本日日出〇二一四なり。

敵空母及重巡出港、真珠港は戦艦八隻のみの情報に一同長蛇を逸せる感深し。空母よ入港してあれ！

夜十一時半敵航空機発見の警報に配置につく。加賀の揚げし測風気球を見誤りたるものらし。風声鶴レイの類、疑心暗鬼を生ず。